

伊根町地域公共交通会議

取組の概要

- ◆ 従前の定時定路線のコミュニティバスを廃止し、令和4年4月より点在した集落をカバーできるドアツードア輸送の自家用有償旅客運送（以下「いねタク」）を導入した。
- ◆ 幹線バスを含めた、地域公共交通の利用促進策を地域全体で実施。特に「いねタク」に関しては、町が全世帯に配備しているタブレット端末から簡単に予約できるように整備するとともに、予約方法についても個別対応などで周知しており、オンラインの予約率を上げることで、運行管理等の負担軽減をしている。
- ◆ 「いねタク」の運行については、観光目的での利用も促進しており、結果として利用者・運賃収入の増加につながっている。（R6.2時点で1226人が観光利用で登録済）



1. 多様な主体の実質的参画

- ◆ 伊根町では町長のリーダーシップの下で公共交通の維持・活性化のための施策を進めており、「タブレット端末活用によるデジタル化推進」や「観光振興（泊食分離）」など行政組織内でも横断的に協力し、利用促進を行っている。
- ◆ 小学校では、路線バスを利用した校外学習の実施に加え、その前日にバスに乗るためのルールやマナーを学習することで、公共交通の利用促進に繋げている。

2. 創意工夫

- ◆ 公共交通の情報を1冊にまとめた伊根町総合時刻表を作成している。高速バスなどの広域交通を含めたダイヤ等を網羅するとともに、バスの乗り方・「いねタク」の予約方法・運転免許自主返納支援事業の案内などの公共交通の利用を促す情報を掲載している。
- ◆ 町から全世帯に配備しているタブレット端末（いねばん）を用いて、様々な行政情報を発信しており、簡単な操作で「いねタク」の予約ができるような工夫をしている。「いねばん」での予約方法について、事前説明会や個別対応で細やかに周知を図り、70歳代利用者の約4割が「いねばん」で予約をしており、運行管理等の事務の効率化に繋がっている。
- ◆ 「いねタク」は電気自動車で運行しており、電気は町役場横の太陽光発電設備でつくられた電気を利用している。CO2排出量削減を図るとともに、「いねタク」に電気をためることで、非常時の電力確保を図るなど、再エネを活用した持続可能なまちづくりに貢献している。



3. 自立性・継続性

- ◆ 「いねタク」については、日常利用は昼間が多く、観光利用は夕食に出かける夕方が多いため、観光二次交通の課題にも配慮しつつ、効率的な運行となっている。財政負担額は同程度であるが、従前のコミュニティバスと比較し、利用者数・運賃収入は大幅に増加している。

